

Nagoya University Medical Museum
Small Exhibit 13th

ミニ企画展

戦争と大学

ふたたび

— 軍医と銃後 —



2016 6. 10 FRI - 9. 30 FRI

平日 9:00-20:00 8月8日-9月30日は9:00-17:00

土 13:00-17:00 8月13日-9月24日の土曜日は休館

休館日: 日・祝日、8月15-16日、25-31日

入場無料

名古屋大学附属図書館 医学部分館 2階入口ホール

問合せ先: 名古屋大学附属図書館医学部分館

名古屋市昭和区鶴舞町65

TEL 052-744-2505

特別講演会 大川 四郎 (愛知大学法学部教授)

2016年9月30日(金) 15:00-16:30 (名古屋大学医学部基礎研究棟 1階 会議室2)

「第二次世界大戦中の赤十字と名古屋大学」

日本の軍医制度は明治初期に始まりました。司馬凌海(1840-1879)の師であった松本良順(1832-1907)と、森 林太郎(鷗外 1862-1922)は軍医としても知られ、二人は後に軍医総監になりました。

1931年(昭和6年)の満州事変、1937年の日中戦争と戦争が拡大していくにつれて、軍医として召集される医師が増えて、医師不足が顕著となります。陸軍省などの要請により、医師の増員養成が国防上、国民医療上急務とされ、1939年5月に、帝国大学7校、官立医科大学6校に修業年限を4年とする臨時附属医学専門部が設置されました。同年、満蒙国境で大日本帝国とソビエト連邦両軍が衝突するノモンハン事件が起こり、国内では、国家総動員法に基づく国民徴用令が制定され、銃後(直接戦闘に加わっていない一般国民)も、間接的に何らかの形で戦争に参加していくことになります。

この「ミニ企画展」は2014年2月から6月にかけて開催した「戦争と大学—1931~1945 官立名古屋医科大学・名古屋帝国大学—」の続編として開催するもので、名古屋大学医学部史料室(附属図書館医学部分館4階)に所蔵する史料の中から、軍医と銃後に関連する図書、写真、医療器具などにより、展示公開します。

企画展期間中に、特別講演会も開催します。



特別講演会

入場無料
予約不要



第二次世界大戦中の赤十字と名古屋大学

日時: 2016年9月30日(金) 15:00-16:30

会場: 名古屋大学医学部基礎研究棟 1階 会議室2

大川 四郎(愛知大学法学部教授)

名古屋大学法学部卒業

法学修士(ジュネーブ州立大学法学部)、法学修士(名古屋大学)

講演テーマに関する著作類:

- ・共著「太平洋戦争中の日本国内における欧米人捕虜の処遇に関する日本赤十字社文書の研究」
- ・単著「赤十字国際委員会駐日首席代表フリッツ・パラヴィチーニ博士(1874-1944)とそのスイス人協力者たち」(ロジャー・モッティーニ編『スイスと日本 — 課題を抱えた時代のパートナーシップ(スイス日本商工会議所創立 25 周年記念年鑑)』)
- ・単著「(研究ノート)第1次世界大戦中の名古屋俘虜収容所における救恤活動について — 赤十字国際委員会駐日代表フリッツ・パラヴィチーニ報告をもとにして」
- ・編訳書『欧米人捕虜と赤十字活動 — パラヴィチーニ博士の復権』(論創社、2005年)ほか



近代医学の黎明デジタルアーカイブ

<http://www.med.nagoya-u.ac.jp/medlib/history/>

名古屋大学医学部史料室に所蔵している史料をデジタル化し、「近代医学の黎明デジタルアーカイブ」として、インターネットで公開しています。ぜひご覧ください。



資料ご寄贈のお願い

みなさまがお持ちの医学・医療史に関連する資料がありましたら、ぜひご寄贈いただきますよう、お願いいたします。